

特集「社会活動に協調する技術とネットワークサービス」の編集にあたって

関 良明^{1,a)}

コンピュータネットワークのグローバルな普及、情報メディアの多様な発展、ネットワークサービスの拡大とそれにもなう各種脅威の発生など、社会における情報通信環境は変化し続けている。また、近年スマートフォン等の携帯端末が急速に普及し、新たなコラボレーションやネットワークサービスが登場し、情報セキュリティ等の問題も現れてきた。社会活動を効率的に推進するための情報共有と、情報資産を守るための情報セキュリティは表裏一体の関係にあり、情報資産をただ守るだけでなく、組織やコミュニティの強みとして情報を積極的に活用していくための研究開発が重要と考えられる。たとえば、1) 共通の仕事や目的のために働く利用者のグループを支援し、共有作業環境のためのインタフェースを提供するコンピュータベースのグループウェア、2) 社会的なつながりをインターネット上に形成する SNS を活用して、利用者の知識を共有する知識共有ネットワーク、3) スマートフォン等の位置情報に関する行動の履歴情報の活用、4) コンピュータネットワークのリスクを利用者が正しく理解し、脅威を利用者がつねに意識して行動する攻めのセキュリティなどを情報共有と情報セキュリティの両面から見直す時期にきていると考えている。

本特集では、このような状況認識から、私たちの社会・地域、日常生活、ビジネス、教育・学習などさまざまな社会活動の場を、より安心・安全にする知見や技術、ネットワークサービスの研究開発をいっそう推進していくことが求められると考え、時宜を得て迅速に関連する研究論文を一括掲載することにより、社会に成果を公開し、グループウェアとネットワークサービスに関する研究のいっそうの発展に寄与することを目的とした。

本特集には 52 件の論文が投稿された。2013 年 4 月に第 1 回編集委員会を開催し、投稿論文が特集号のテーマに合致しているかを審議し、52 件を対象として査読を開始した。2013 年 6 月に第 2 回編集委員会を、2013 年 9 月に第 3 回編集委員会を開催し、慎重な審議の結果、最終的に 19 件

の論文を採録した（採択率 37%）。レベルの高い論文が選ばれたと考えられる。採択論文の内訳は、共有作業環境のインタフェースを提供するグループウェア 8 件、SNS などを活用した知識共有ネットワーク 6 件、位置情報に関する行動履歴の活用 3 件、安心・安全にインターネットを利用するためのセキュリティ 2 件である。社会活動に協調する技術とネットワークサービスに関する優れた論文を掲載することができた。今回残念ながら不採録になった論文の中にも興味深い内容の論文が多くあった。著者の皆様には、ぜひとも研究を継続していただき、再投稿されることをお願いしたい。

最後に特集号を編集にあたり、優れた多数の論文を投稿していただいたすべての著者の貢献にお礼を申し上げたい。また、予定通り発刊できたのは、多忙の中、短期間の査読に協力いただいた査読者の方々、金井秀明幹事をはじめとする編集委員、学会関係者の多大なご尽力のおかげであり、ここに心から感謝申し上げたい。

「社会活動に協調する技術とネットワークサービス」特集号編集委員会

- 編集長
関 良明 (NTT)
- 幹事
金井秀明 (北陸先端科学技術大学院大学)
- 編集委員 (五十音順)
市村 哲 (東京工科大学), 井上智雄 (筑波大学), 岡田謙一 (慶應義塾大学), 緒方広明 (九州大学), 岡本昌之 (東芝), 小川剛史 (東京大学), 金子 聡 (日本アイ・ピー・エム・サービス), 葛岡英明 (筑波大学), 桑照宣 (富士通研究所), 小林 稔 (NTT), 斉藤典明 (NTT), 鈴木幸太郎 (NTT), 高橋正道 (富士ゼロックス), 多田昌裕 (近畿大学), 塚田晃司 (和歌山大学), 樋山淳雄 (東京学芸大学), 宗森 純 (和歌山大学), 由井蘭隆也 (北陸先端科学技術大学院大学), 吉野孝 (和歌山大学)

¹ NTT セキュアプラットフォーム研究所
NTT Secure Platform Laboratories, Musashino, Tokyo 180-8585, Japan

^{a)} seki.yoshiaki@lab.ntt.co.jp